

豊かな心と健やかな体の育成

平成27年度 東京都教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育推進校・研究開発校
(中央区立久松小学校ホームページ参照)

平成28年度 東京都教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育推進重点校
(同左ホームページ参照)
平成29年度 東京都
教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育
アワード校



主体的・対話的で深い学びの追究を通して (全学年・全教科等)

研究のねらい・内容

豊かな心と健やかな体の育成のために

ねらい

○全ての教育活動の中で、小集団活動を核に、より主体的・対話的で深い学びをめざすことで主題に迫る。

内容

- 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現をめざした小集団活動による学び合い学習（何をどのように学ぶか）の充実・定着（全学年・全教科等の実践例の蓄積）
- 全教科等における小集団活動を核とした言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成
- 心と体の健康教育の充実



平成29年7月4日
中央区立久松小学校

中央区立久松幼稚園



あいさつ

中央区教育委員会教育長 島田 勝敏

平成29年3月に公示された新たな学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」を通して、児童・生徒の生きる力を育むことが明確に示されました。こうした中、久松小学校では、平成28年度から2年間、中央区教育委員会研究奨励校として「豊かな心と健やかな体の育成」を研究主題として熱心に研究に取り組まれてこられました。幼稚園から小学校までの9年間を見通した上で、小集団活動と言語活動の充実を核とした課題解決型学習を推進した本校の研究実践は、大変意義深いものであり、その成果が多くの学校・幼稚園で活用されることを願っております。

酒井 寛昭 校長をはじめとする教職員の皆様の熱意と努力に対し深く敬意を表しますとともに、本校の研究にご指導を賜りましたすべての皆様に、心より感謝を申し上げます。

目

- 久松の研究……………
- 実践事例(小学校)
- 実践事例(幼稚園)
- まとめ……………

久松の

豊かな心と健やかな体の育成

～自分やみんなを大切にする児童の育成を目指して～

「小集団活動と言語活動の充実を核とした課題解決型学習を推進することでコミュニケーション能力や感性を育み、育てたい姿・めざす姿の子どもを育成する」

子どもたちの環境と現状

- 気の合う限られた集団内での関わり、コミュニケーション
- インターネット・メールでのコミュニケーション
- 思いを一方向的に伝える
- 友達や仲間に関する悩みの増加
- 自尊心の低下
- 低い水準で推移する体力
- 情報化・人工知能の進化

多様な課題

求められる資質・能力

知的能力・社会的能力

- 思考力・判断力・表現力(未知の状況に対応できる力)
- 主体性(学びに向かう力・思いやりの心・人間性)
- 思考の基盤となる基礎学力(生きて働く知識・技能)
- 合意形成能力(協力した課題解決)
- 論理的思考力(論理的に述べて問題を解決する)
- 自分と他者を大切にする心

健康・体力

集団の高まり

伝えたいという気持ちの高まり

育てたい姿・めざす姿

- 主体的かつ自律的に活動し、他者と効果的なコミュニケーションをとる子ども
- 多様な価値観をもつ人と協力・協働し、課題を解決できる子ども
- **思考力・判断力・表現力** **主体性** **多様な考え** **自律性・社会性** **対応力(場・相手)** **思いやりの心** **思考の深まり** のある子ども

一人一人の主体的・対話的で深い学びの保障

主体的な学び

- ◆ 学ぶこと・ねらいへの興味・関心、学習の振り返りの中でよさや可能性への気付き

対話的な学び

- ◆ 子ども同士の協働、教員や地域の人との対話・交流の中で気付き・思い・考えの共有

深い学び

- ◆ 教科等の特質に応じた思考・判断・表現
- ◆ 関係性やつながり、系統性などへの気付き・納得

全ての教育活動における課題解決学習

言語活動

- 体験を表現する・まとめる・書く・伝える・伝え合う・聴き合う
- 対話・討論などにより、よりよいことに気付いたりまとめたりする

小集団活動

- 他者認識と自己認識力の向上
- 違いを受け入れる(多様性の受容)
- 自己肯定感・表現意欲の向上
- 思いやりの心
- 関わる力

体験活動

- 多様な直接・間接体験の充実
- 非言語コミュニケーションを含めた多様な経験
- 課題の発見

育てたい姿・めざす姿に迫るための方法・手だて

..... 2
 5
29
33

研究

あいさつ

校長 酒井 寛昭

「豊かな心と健やかな体の育成」を短期の重点目標として掲げ、ここ数年、全教育活動で従来の教育実践に加えて小集団活動を核とした様々な取組を推進してきました。明日の久松の教育の創造に取り組む中で、言語活動や体験活動の充実も重要であり、小集団活動と相まって課題解決学習を推進し主題に迫るためには、主体的な学び、対話的な学びをより充実させ、一人一人に深い学びを保障することが、何より大切であることが、明らかになってきました。「育てたい姿・めざす姿」を具体的にし、全教育活動で実践してきたことを、どうにか一旦まとめることができました。皆様の御批正をいただきたくお願い申し上げます。御指導いただきました講師の先生方、中央区教育委員会はじめ関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

各教科等において小集団活動と言語活動の充実を図る

全教育活動で言語活動の充実というねらいをもった小集団活動を推進することで「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現し、研究主題に迫る。

小集団活動の充実

そのための手だて・工夫

自分の思考（要素Ⅰ）

- 学習課題に対して自分の考えをもつ **主体性**
- 自分の考えをどのように表現するか考える **主体性** **思考力・判断力・表現力**

伝え合い（要素Ⅱ）

- 自分の考えを伝え、他者の考えを知る。 **思考力・判断力・表現力** **思いやりの心**
- 他者との伝え合いを通して、多様なものの見方・考え方に触れる **多様な考え** **思いやりの心**

思考のまとめ（要素Ⅲ）

- 他者との伝え合いを通して、再び自分の考えをより確かに、より広く、より深める **思考の深まり**
- 自分の考えを自分の言葉で、他者によりよく表現する **多様な考え** **対応力**
自律性・社会性 **思いやりの心**

◆思考力・判断力・表現力の育成 ◆コミュニケーション能力の育成

〈PISA 調査などの各種調査からの課題〉

- 思考力・判断力・表現力等を問う
読解力や記述式問題
- 知識・技能を活用する問題

〈これからの社会や企業が求める能力〉

- 知的能力
 - ◆思考力・判断力・表現力等の能力や自ら学習に取り組む態度
 - ◆思考の基盤となる基礎学力や教養
- 社会的能力
 - ◆チームで協力して課題を解決する「合意形成能力」
 - ◆論理的に述べて問題を解決する「論理的思考力」

主体的な学び・対話的な学び・深い学びと本校・本園の研究実践

従来行ってきた小集団を核とした学習指導の蓄積を新たな視点で見直し、より主体的・対話的で深い学びをめざす中で、主題「豊かな心と健やかな体の育成」に迫る。何ができるようになったのかを明確にし、そのためにどのように学ぶのかを大切にします。

(幼児期からの継続性を大切に一人一人に保障する)

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

幼児期の終わりまでに育つ姿勢

周囲の環境に興味や関心をもって働き掛ける。
見通しをもって粘り強く働き掛ける。

(幼児なりに)

他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、協力したりして自分の考えを広げ深める。

直接的・具体的な体験の中で様々な見方・考え方を働かせて対象に関わり、心を動かし、自分なりのやり方、ペースで試行錯誤を繰り返し生活する。

(学年等の発達に応じた系統性を大切に一人一人に保障する)

児童期の終わりまでに育つ姿勢

相手意識・目的意識をしっかりもち、**小集団**での表現活動の中で自らの学習を振り返る。振り返りの中で自己のよさや可能性に気づき、意欲を高める。

小集団活動による交流の中で、一人一人の気づき、考え、思いが共有され新たな気づきや関係を明らかにする。
相手を思いやる交流・関わりができる。

各教科等のもつ、それぞれの特質を大切に**小集団活動**を充実させることで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出す。関係性やつながり、系統性などに気づき納得する。
振り返りによるつながりなどの気づき、納得、腑に落ちる。

学びに向かう力

学びの質を高める

納得できる深い学び

小集団活動を活性化する手だて・工夫で深い学びに迫る

豊かな心と健やかな体の育成

これまで
めざして
きたこと

主体性 関わる力 質の高い学び

小集団活動を核とした
コミュニケーション能力の向上・言語活動の充実

●久松小学校の小集団活動…2人・3人・4人の活動で、視点を決めて見合う、意見や思いを伝え合う中で、相手を考えた伝え方を学び、自分の考えを広げたり、深めたりする。主体性や思考力・表現力などを育成する。

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (体育の目標及び研究主題より)

【豊かな心】友達との関わりの中で、協力して楽しく運動したり自分の考えを伝えたりできる子

【健やかな体】運動の楽しさを味わい、進んで運動に取り組む子

具体的手だてと活動

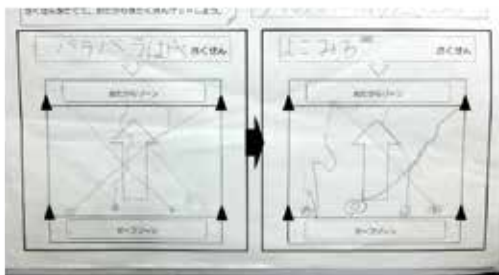
- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

関わり合いを活発にし、ゲームへ向かう意欲やチームとしての団結、作戦の質を高めるために、単元を通して4人の小集団で活動する。

学習カードの活用

チームで話し合って作戦を考えたり、自分の考え(作戦)を表現しやすくしたりするために、毎時間作戦カードを活用した。図や絵で描きながら、言葉で友達に伝えている姿が見られた。



作戦タイム

作戦についてより活発に話し合うことができるよう、ゲームの前や待ち時間に作戦タイムを必ず取り入れた。より多くの宝を取るために、どのチームも進んで作戦を考えていた。



教材の工夫

子どもたちが進んで運動に取り組むために、ルールや準備が簡単であり、さらに子どもが楽しめる鬼遊びを取り入れる。宝取り鬼を「お宝ゲットゲーム」と名前を変えたり、キラキラのお宝を使ったりすることで、さらに遊びにのめり込むようにする。



声掛け及びよい動きの共有

鬼遊びに必要な動きのこつに気付いたり、簡単な攻め方(作戦)に気付いたりするために、活動の途中や振り返りなどで適切な声掛けをしたり、よい動きを全体で紹介して共有したりする。



「どうやって逃げたら(動いたら)鬼につかまらないかな?」
→動きのこつ、攻め方

「どうやって攻めたら宝が(もっと)取れるかな?」→攻め方

「右とみせかけて、左へ走るとつかまらないよ」

「友達と、せーので走り出したらいいと思うよ」



1年 道徳「二わの小とり」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(道徳の目標及び研究主題より)

【豊かな心】感じたこと考えたことを友達と交流し、よりよく生活しようと思う子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

言語活動の充実

考える時間を充分にとり、自分が感じたこと・考えたことをワークシートに書いたり、友達と考えを交流したりする言語活動が充実した。これらの活動を通し、自分の考えが整理されたり、自分とは違う考え方に触れたりし、道徳的見方や考え方を軌道修正するなど自分の道徳的価値を改めて見つめ直すことができた。



資料の主人公に共感し、自分だったらどう考えるか吹き出しに書く。

自分とは違う考え方や感じ方の友達がいることに気付く。

教員の工夫

主人公の心情を考える際、自分の考えを心情円を用いて表す。口頭で自分の考えを表現することが苦手な児童も心情円を活用することで、友達に自分の考えを伝える手助けとなる。友達との微妙な考えの違いを視覚化できるようにし、話し合いの活性化を図る。



小グループでの交流(ペア・4人組)

小グループ①(ペアによる交流)

自分の考えをもち主体的に授業に参加できるようペアで交流する活動を取り入れた。この交流は、友達が反応しながら話を聞いてくれるので、自分の考えに自信がもてたり、自分の考えを確かめたりすることができた。また、しっかり友達の考えが聞け、考え方の違いに気付くことができた。より多様な考えに出合うため、ペアを変え2回行った。



小グループ②(役割演技)

役割演技は全員が挑戦した。4人グループになり、2人が対話的に役割演技をすることで主人公になりきって思いを膨らませたり重ねたりし、共感的理解が深まった。2人はその様子を見ることで、自分はどうすればよいのかより主体的に考えられた。全員の前で数人が行うより、より自分のこととしてとらえ、ねらいとする道徳的価値に迫れた。



2年 算数「九九を作ろう」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (算数の目標及び研究主題より)

【豊かな心】自分が考えたことの理由を明確にして表現する子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

言語活動の充実

5の段や6の段などの既習した九九を活用して、アレイ図や式を用いて考え、明確な根拠をもち、自分の考えを友達に表現できるようになった。



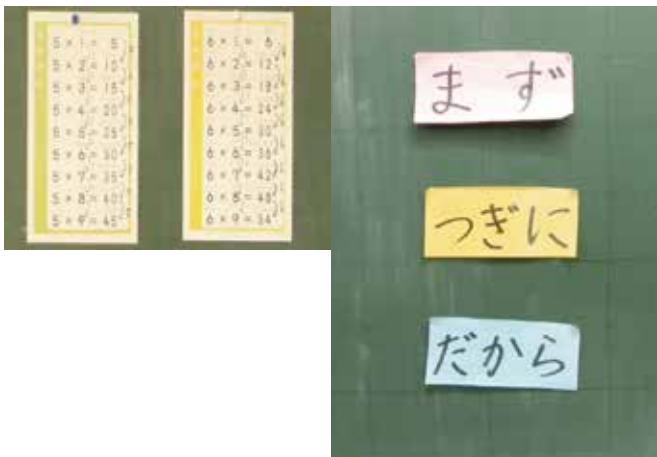
ペアでの話し合い

自分の考えをもとに友達と話し合うことで、自分の考えに自信をもつことができる。また、学級の前で発言することが苦手な児童も、隣の友達となら、自分の考えを伝えることができる。



板書の工夫

前時で学習した6の段の九九や考え、まとめを掲示したり、順序を表す言葉を黒板に貼ったりすることで、既習したことを思い返して考えを書くことができる。また、説明のときに、順序よく話すことができる。



拡大ノートを活用

拡大ノートを活用することで、自分の考えを整理することができる。また、全体に自分の考えなどを共有するときに黒板に貼って、言葉での説明だけでなく、視覚的にも理解を深めることができる。



2年 生活「はっけんくふうおもちゃ作り」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (生活の目標及び研究主題より)

【豊かな心】自分の思いや願いを実現し、自分の考えを表現できる子
友達と考えを伝え合い、互いのよさや違いに気付ける子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

同じようなおもちゃをつくる小集団を「研究室」と名付けた。同じようなおもちゃをつくっているの、メンバー同士で情報を共有する必要感が生まれ、それぞれの考えの伝え合いを自信をもって行ったりすることができた。



環境設定

自分の思いや願いに沿って、おもちゃを改良することができるように、貸し出し用の道具や材料を置く場、実際に動かしてみようという環境設定をする。



毎時間の振り返り

思考の深まりや次時への意欲付けを促すことができるように、毎時間ワークシートで振り返りを行い、無自覚だった自分の気づきや思考を可視化する。

友達のおもちゃと比べて、少しパワーアップできたよ。

友達のアドバイスから少しおもちゃを変えることにしました。



ワークシート・板書の工夫

ワークシートでは、授業の中で考えたことや感じたことを言語化しやすいよう、絵や文を工夫する。また、板書では友達のことを視覚的にもわかるよう整理する。



2年 生活「さいばい・花ややさいをそだてよう」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (生活の目標及び研究主題より)

【豊かな心】自分の思いや願いを実現し、自分の考えを表現できる子

【豊かな心】友達と考えを伝え合い、互いのよさや違いに気付ける子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

個々の気づきを友達の気づきと関連付けて捉えることで、思考を深めていけるようにした(1人→グループ→みんな)。互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うことができた。



言語活動

日常的に国語科を中心として習得した表現・言語活動のスキルを活用し、発見したり確かめたりしたことを、聞き手に分かるように話す。また、友達の発表を聞いて、自分の気づきとの異同に着目して質問したり意見を述べたり、互いに交流できるようにする。



体験活動の重視

友達と協力して作業に取り組み、収穫の喜びを感じる。見る・聞く・触れる・つくる・探す・育てる・遊ぶなど直接働き掛ける活動や体験活動の楽しさ・気づきを表現する。諸感覚を利用しながら、体全体で自然を感じる。



板書・掲示等の工夫

国語との関連で自分の気づきを文字で記述したり、図画工作との関連で絵に表現したりする。黒板などに観点(比較の視点など)を書いたカードを掲示する。互いの気づきを共有できるように板書を工夫する。



2年 英語活動「野菜や果物のクイズを出そう」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (英語活動の目標及び研究主題より)

【豊かな心】友達との関わりを通して、コミュニケーションを進んで図る子

【豊かな心】英語活動を通じて、英語の基本的な音声や表現に慣れ親しむ子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

2人での小集団を中心に活動することで、子ども同士と一緒に活動する中から楽しさを味わい、互いの課題解決を図ることを通して、よりよい関わりを築くことができた。



ALT との活動

ALTによる発音練習を行うことで、英語の発音を聞こうとする意欲を引き出す。また、楽しい活動を行うことにより、外国人の人に対して臆することなく話し掛けたり、異文化に興味をもったりする。



人と関わる楽しさを味わう活動の工夫

英語を使って人と関わる活動が行えるよう、チャンツやゲームを多く取り入れる。小グループで楽しく人と関わり合いながら英語の言い方や言葉を学んでいく。



ワークシートなどの工夫・活用

英語の言葉や言い方、またゲームのやり方などがすぐに分かるよう、掲示物やワークシートに絵を多く入れる。



中央区オリジナルカリキュラムの活用

区のオリジナルカリキュラムを活用し、児童の様子をよく把握し、楽しく活動させる。



3年 算数 はしたの大きさの表し方を考えよう～分数を使って～

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (算数の目標及び研究主題より)

【豊かな心】自分の考えを根拠を明らかにして表現できる子

【豊かな心】自分と友達の考えの相違やよさに気付くことができる子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

全体交流

小集団での交流、全体交流の中で共通する考え方やキーワードを基に、本時のねらいに迫った。また、小集団で話し合った後に全体交流をすることで、自分たちの考えたことと他の小集団で話し合ったことを比べながら話を聞いて考えを広めたり、深めたりすることができた。



小集団活動

根拠を明らかにしながら筋道を立てて説明する経験を全員ができるように、小集団(3人程度)の活動を取り入れた。小集団の中で互いに問題を出し合い、それぞれの問題を考え、考えたことを根拠を示しながら交流することでお互いの考えのよさを知るようにした。一連の活動を通して、より多くの考え方を知り、自分の考えに生かせるようにした。



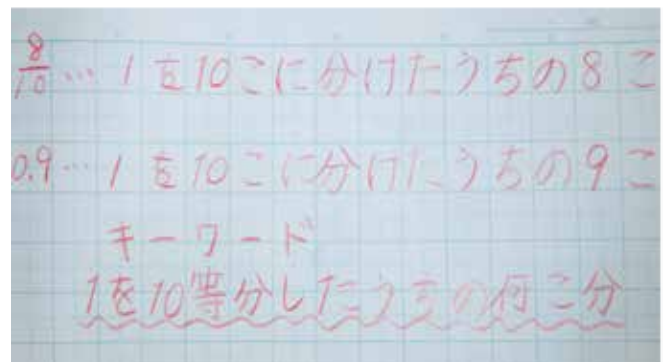
ICTの活用

プロジェクターを使って子どもたちの考えた式や図をその場で黒板に投影したことで、全体で共有したいことがスムーズに伝わる。



キーワードの活用

小集団で「自分の考えと共通すること」や「説明をする際に大切な言葉」を観点として話し合い、ノートに赤鉛筆で書きとめるようにする。どの考えにも共通する表現をキーワードとし、そのキーワードを基に自分たちのグループで一番分かりやすいと思う考えを1つに絞る。



4年 国語・書写「漢字の組み立てを考えて書こう(雲)」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(国語の目標及び研究主題より)

【豊かな心】友達との関わりの中で、漢字の組立て方を理解し、字の形を整えようと意欲的に活動する子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

子ども同士がアドバイスの視点に沿って、声を掛け合うことで、自分の作品のよさや課題について気づき、お互いの関係をよりよいものにすることができた。

もっと線と線の間を短くするつもり。



言葉で伝えるのが難しい部分は直接書きこみます。

小集団活動を活性化するために

ポイントの理解

小集団で言葉を掛け合えるようになるためには、伝えるための「知識」が必要となる。教科書のポイントを十分に指導し、確実に一人一人の知識とする。



アドバイスの視点の共有

子ども同士が意欲的に言葉を掛け合うために、どこを見合うのか、アドバイスの視点を具体的に示すことで、子ども同士の関わりが深まる。



小集団での関わりの振り返り



小集団の活動を終えた後「教科書としておさえるべき点」と「関わり方」の視点で学習感想を書き、発表することで振り返りを行う。この場で「よさ」を共有することで、教科書としての深まりも生まれ、言葉掛けや関わり方も豊かになった。この時間の積み重ねが小集団活動を通して「豊かな心」を養うことにつながる。



「よさ」の共有の時間

4年 体育 「走の運動」 かけっこ・リレー

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(体育の目標及び研究主題より)

【豊かな心】友達との関わりの中で、対話をしながら互いの力を主体的に高め合う子

【健やかな体】運動の特性に応じた楽しさを味わい、自己の課題解決に向けて進んで運動する子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

リレーはチームで走る教材であり、小集団での活動が必然となる。チームで競争を楽しみ、記録を伸ばすために練習の工夫を工夫していく中で、中学年のリレーの技能の中心となる「テークオーバーゾーン内で走りながらバトンパスをする」技能を一人一人が身に付けることができるようになった。



教材の工夫

学習のメインとなるリレーの教材は、校庭のトラックを使った、2チームでの対戦型周回リレーとする。その他に競争を楽しみながら個々が走り方を身に付けることのできる場を設定する。

競走を楽しみ、走る力を高めよう

★コーナー競走

コーナーを走り、先にゴールした人の勝ち。スタートラインの位置をいらいと覚えて競走してみよう。

【ポイント】
 ・全員の心の力
 ・全員の力を合わせよう
 ・全員練習

★ころころフラッグ

ダッシュマークがスタートの合図。先にコーンを先にきった人の勝ち。スタートの位置をいらいと覚えて競走してみよう。

【ポイント】
 ・全員のダッシュマークをよく見る
 ・走り出すときの姿勢
 ・全員の心の力

学習資料の活用

児童の気付きをもとにしてリレーの技能ポイントをまとめ、学習資料を作成する。中学年という発達の段階を考慮しながら「スピードを落とさずに走りながらバトンパスをする」ために必要なポイントを精選したので、さらに高度な技能ポイントを児童が進んで書き加えるようになり、チームそれぞれの資料が完成した。

わたすとき

うでをひいて全力で走る

「ハイ」と声をかける

バトンを渡すときも、ゾーン内を走り続ける

うけるとき

映像資料の活用

銀メダルバトンパスをめざそう

リレーの楽しさは一人一人の全力の走りとバトンパスにある

オリエンテーションでリレーの楽しさや卓越した技能を知ることができるように、映像資料を作成する。映像資料を活用することで、視覚的に理解できるようにする。意欲の向上にもつなげることができる。

4年 道徳「ばんざい大きな花まる」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(道徳の目標及び研究主題より)

【豊かな心】自らを見つめ、自らに問い掛けながら、自分の考えをもてる子
友達との関わりの中で、よりよい生き方を見付けようとする子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

道徳における言語活動の充実

自分の考えを書いたり話し合ったりするなど表現する機会を充実させ、多様な考えに触れる中で、ねらいとする道徳的価値に対する自分の考えが広がるとともに深まった。



自分の考えをもとに
友達と話し合う。

自分の考えを発表し、
学級全体で共有する。



発問・資料提示の工夫

児童が悩まざるを得ない発問「議論に値する発問」を設定する。一人一人が自分の問題として捉えて主体的に考えられるようにする。資料を分割提示することで、「どうしたらいいのだろう?」という関心も高まる。



主要な発問を工夫して掲示する。

児童の思考を整理するための板書。

小集団活動

自分の考えをもとに、友達と話し合う場を設ける。挙手が苦手な児童も、少ない人数の中で自分の考えをしっかりと伝えることができる。そして、多様な価値観に触れることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

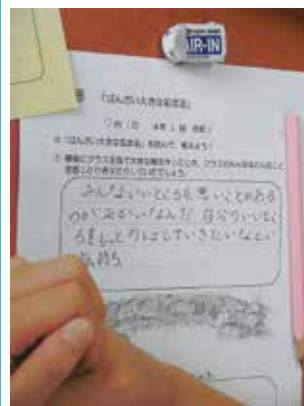


自分の考えをもとに友
達と話し合い、多様な
価値観に触れる。



ワークシートの活用

ワークシートを活用することで、自分の考えや気持ちを整理することができた。1時間の振り返りは、全体の場で発言できない児童も、自分の感じたことを書き表すことができる。毎時間書きためることで、自身の心の変化や葛藤を見つめ直すことができるようになる。



自分の考えや気持ちを
ワークシートに書き留
める。

5年 国語「明日をつくるわたしたち(久松〇〇アップ計画を考えよう)」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(国語の目標及び研究主題より)

【豊かな心】友達との関わりの中で、互いに高め合おうとする子

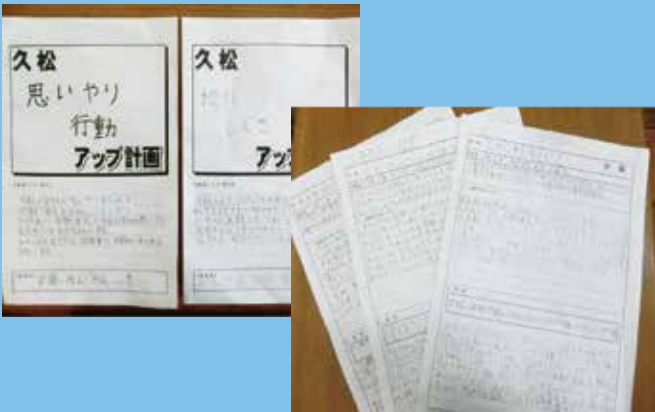
自他の意見の違いを踏まえ、計画的に話し合いを進めようとする子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

実生活の話題で互いに高め、深め合う

児童の一番身近な社会である学校を話題とすることで、児童がよりよい学校を構築していこうとする必要感や切実感をもちやすい。また、作成した提案書を実際に学校へ提案したり、実行したりすることができ、よりよい共生社会を目指していくことの大切さを深く実感することができた。



話し合い方法の工夫

考えを広げるための話し合いとしてブレスト会議方式、考えを深めるための話し合いとしてワールドカフェ形式を取り入れる。これにより、誰もが自分の考えをもち、責任をもって、積極的に話し合いに参加し、また、相手の考えを尊重できる態度をもてるようにする。



互いの考え、相違点を明確にしたり、話題に沿って話し合ったりするために、話し合いの中心に画用紙を置き、書き込んだり、付箋を操作したりして、話し合いを可視化できるようにする。



小集団活動

小集団で個々の考えを出し合い、考えを一つにまとめ上げていく。そのためには、個々の主張をしっかりとし、それを聞き合い、認め合いながら小集団としての結論を導き出すことが必要となる。これらの活動は、人を大切にする思いやりの心や、共生社会に生きる一員としての自覚や態度を育むと考えた。



《アップ計画の内容》

あいさつ日課アップ計画・緑を増やそうアップ計画
話して聞いてアップ計画・校外しぐさアップ計画…

5年 理科「もののとけ方」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやり的心

思考の深まり

目指す児童像(理科の目標及び研究主題より)

【豊かな心】結果と関連付けて考察し、科学的な言葉を用いて表現できる子

【豊かな心】友達と協力しながら、問題を解決する子

具体的手だてと活動


- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

理科における言語活動の充実

問題解決型の学習の中の様々な場面で自分の考えを表現する機会を充実させ、科学的な根拠のある表現を意識して交流を行った。考察を書く際には1学期から活用をしている考察ポイントを使い、「課題に沿うこと」「結果をもとにして自分の考えを組み立てること」を意識しながら考察を書くことができた。

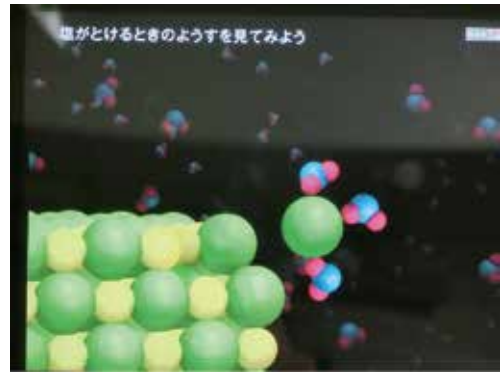
考察の書き方 ポイント

- ① 予想と比べる
 - ・ 予想と同じで～
 - ・ 予想と違って～
- ② 結果から自分の考えの根拠を書く
 - ・ なぜなら～
 - ※ 変えた条件に注目してみよう!
- ③ 予想外の結果が出た理由や他の班と明らかに違う結果がでた理由を考える
 - ・ ～と考える。
- ④ 他の自分の考えを書く
 - ・ ～と考える。



ICTの活用

児童の実験から導き出された考察や結論をおさえたあと、今後の課題や中学校への学習につながる目に見えない粒子についてのイメージを、アプリの粒子モデルを使って共有する。今回の実験の不鮮明な点を解決でき、さらに次の課題で児童自身の考えを膨らませるきっかけとなる。



2種類の小集団の活用

課題を解決する実験手段がいくつか考えられる課題を設定し、小集団の中で分担し、実験班に分かれて実験を行い、一人一人が結果を持ち帰って報告することで、実験への責任感をもち、主体的に活動することができた。



「実験班」

他の交流班の同じ実験をする友達と協力して行う。

「交流班」

予想やそれぞれの担当の実験結果、考察を共有する。

考察の見通し表の活用

小集団ごとに実験前に、結果を考察に結び付けるために見通し表を作成する。それぞれがどのような目的で実験を行うのかを把握することができ、課題に沿った考察ができるようになる。班での話し合いや個人の考察を書くことに対して見通しをもつことができる。

実験内容	見通し	実験結果の見通し
食塩を入れた容器に水を加えてみる。	食塩が溶ける。	食塩が溶ける。水を加えることで食塩が溶ける。食塩が溶ける。水を加えることで食塩が溶ける。
食塩を入れた容器に水を加えてみる。	食塩が溶ける。	食塩が溶ける。水を加えることで食塩が溶ける。食塩が溶ける。水を加えることで食塩が溶ける。
食塩を入れた容器に水を加えてみる。	食塩が溶ける。	食塩が溶ける。水を加えることで食塩が溶ける。食塩が溶ける。水を加えることで食塩が溶ける。
食塩を入れた容器に水を加えてみる。	食塩が溶ける。	食塩が溶ける。水を加えることで食塩が溶ける。食塩が溶ける。水を加えることで食塩が溶ける。

5年 体育 「陸上運動」 短距離走

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(体育の目標及び研究主題より)

【豊かな心】友達との関わりの中で、お互いに高めようと主体的に活動する子

【健やかな体】運動の特性を理解し、自分の能力に適した課題をもち、進んで運動する子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

3人の小集団で活動することで、子ども同士が声を掛け合い、一緒に運動する楽しさを味わい、互いの課題解決を図る中でよりよい関わりを築くことができた。



ICTの活用

タブレット端末を使用し、動画を見られるようにする。実際の動きを動画で確認することで、自分の課題が明確になり、解決に向けての意欲が高まる。また、教え合いの場面においても、映像を通してアドバイスができるので、理解が深まる。



アドバイスカードの使用

子ども同士が主体的に言葉を掛け合うために、言葉掛け例の資料を作成する。友達の動きに応じた適切な言葉掛けがしやすくなり、賞賛する際も「どこが」「どうよかった」を伝えられるようになるなど、小集団での教え合いの質も高まる。

短距離走 アドバイスカード

スタート

- 背中が前に曲がらないように、体幹を伸ばす。
- 足指で地面を蹴る。
- スタートの瞬間は、足指で地面を蹴る。
- スタートの瞬間は、足指で地面を蹴る。
- スタートの瞬間は、足指で地面を蹴る。

中間走

- 呼吸を浅くして、リズムよく走る。
- 呼吸を浅くして、リズムよく走る。
- 呼吸を浅くして、リズムよく走る。
- 呼吸を浅くして、リズムよく走る。
- 呼吸を浅くして、リズムよく走る。

めやす表・段階表の活用

自己の能力に適した課題をもち、進んで運動するための学習資料として「めやす表・段階表」を導入、活用する。挑戦する楽しみや記録達成の喜びを感じることができる。

段階表 (めやすの記録をもとに10m進んで、この記録を突破しよう)

学年	中央駅大会				東洋館大会				日本選手権				アジア大会				オリンピック			
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
5年	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	1:30	

5年 総合的な学習の時間「私たちのオリンピック・パラリンピック」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(総合的な学習の時間の目標及び研究主題より)

【豊かな心】自分の考えを大切にしながら話し合い、互いの考え方を認め合える子
多様な意見のもとで自分の考えを深め、自らの課題と向き合うことのできる子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

3~4人の小集団になって話し合うことで、互いのよさを認めたり、友達の考えから新たな考えを生み出したりするなど、話し合いの活性化につながった。



導入の工夫

導入では、ICTを活用して動画やイメージ図を用いて4年後のオリンピック・パラリンピックの実施目的やホスト国としての役割などについて説明する。導入を工夫することで、4年後の自分をしっかりとイメージして、次の活動の意欲につなげることができる。



多様な考えから自分の課題を見付ける

ブレスト会議によって出された様々な考えの中から自分の課題を考えることができるため、多様な考えの中から自分の考えを見付け、今すべきことを具体化する。



ブレスト会議によるアイデアの拡散 (ブレインストーミング)

ブレスト会議では、「いいね。」の掛け声のもと、4年後のオリンピックで何をしたいかを話し合う。否定されないことや、友達の考えをたくさん聞けることなどがメリットでもあるこの話し合いでは、安心して発言ができたり、友達の考えからアイデアを広げていったりと、活発な話し合いをすることができる。また、他のグループとも交流することで、多様な考えに触れることができる。



6年 国語「創作物語をつくろう(カレーライスⅡ)」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(国語の目標及び研究主題より)

【豊かな心】自分の考えを大切にしながら交流し、互いの考え方を認め合える子
多様な意見のもとで自分の考えを深め、豊かな言葉で表現する子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

言語活動の充実

本教材を様々な人物視点で読み深め、主人公とは異なる視点のもとで創作物語を書くことを言語活動として設定する。児童は多面的に物語を読み進める楽しさを実感するとともに、自分自身の内側からわき出てきた言葉で揺れ動く登場人物の細やかな心情を創作物語の中に表現することができた。



人物視点を変えて書いた創作物語

小集団活動

児童が書いた日記や創作物語をじっくり読み合うために、同じ場面を選択した児童でグループを構成し、その中でペアによる交流活動を行う。児童は、人物の心情や人間関係の変化がどんな理由から起こったのかを、対話を通して確かめ合い、自分の考えを明らかにするための判断材料とする。



ペア学習でじっくりと意見交換

ヒントカード・資料の提示

児童の主体的な学習活動を支援するために、人物の気持ちを日記に書くためのヒントカードや、本教材とは異なる視点で担任が創作した物語「カレーライスⅡ」の冒頭場面を資料として児童に提示する。児童は、目的に応じて資料を活用し、自らの学習活動をイメージして意欲的に学習課題に取り組む。



担任が創作した物語例

ヒントカード

心情の変化をまとめた一覧表

登場人物の心の葛藤や心情の変化などを時系列で一覧表にまとめ、掲示する。学習中に核となった児童の発言や考えも付け加える。日記や創作物語を書くとき、児童は一覧表を使って人物の心情の変化や人物関係の様子を確認する。



登場人物の心情の変化をまとめた表

6年 社会「国づくりへのあゆみ」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(社会の目標及び研究主題より)

【豊かな心】物事を多面的に捉えたことで構築した、自己の考えを大切にする子

【豊かな心】多様な価値観をもつ人と協働し、共に生きていこうとする子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

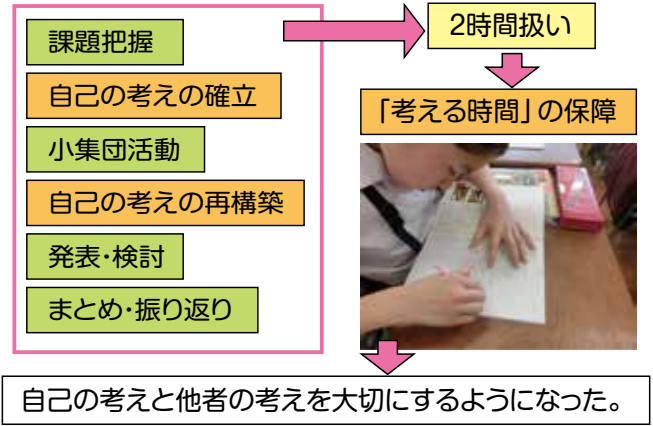
自己の考えを大切にする

物事を多面的に捉えたことで構築した自己の考えを大切にする児童の育成を目指す。また、そういった考えを友達の前で表現できる環境を整えていくことが具体的手だてとなった。



考える時間の保障

全ての児童が自己の考えをもてるようになることが自己の考えを大切にできる第一歩であると考え、1単位時間の考え方を以下のように工夫した。



小集団活動

ただ、児童が関わり合うだけでなく、「何について」話し合い、「どのようにまとめるか」を重点にして小集団活動に取り組んだ。その中で、新たな考えに出会ったり、自分の考えに自信がもてたりする児童が多くなった。



主体的・対話的な学び



意欲を喚起させる工夫

「自分の考えをもちたい」という環境づくりや「話し合いたい」と感じるような必然性を生む資料提示が、自己の考えをもつためには不可欠であると考えた。

教室の掲示環境の整備



児童の手元にも資料



効果的な資料



6年 特別活動・学級活動 活動内容(2)「久松小学校にイノベーションをおこそう」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(特別活動の目標及び研究主題より)

【豊かな心】互いの違いやよさを認め合いながら、よりよい発想をし、それを高めていける子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

小集団活動

同じ課題をもった小集団で話し合うことで、学級全体では意見を言えない子どもが自分の考えを話したり、友達の意見に賛同したりすることができた。



4つのプロセスによる話し合い

話し合い活動を豊かにするために、一つの課題に対して、「仲間タイム」「応援タイム」「スパイタイム」「もう1回タイム」の4つのプロセスで話し合う。互いの考えを深め合い、拡散した意見を収束へと進めることができる。



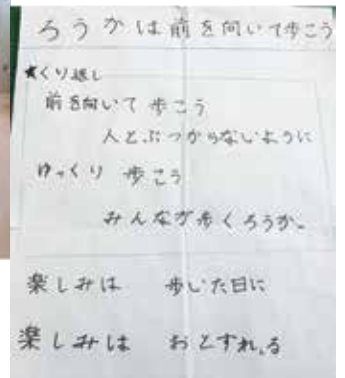
アソムタイムの導入 (新しい 創造的な時間)

本来子どもたちがもっている豊かな発想を引き出すための学習方法である。毎日、5分取り入れたことで、「前を向いて歩こう」の歌をつくるという意見が出された。



決定したことを実践につなげる

決定した「前を向いて歩こう」の歌を毎日休み時間後に放送で流すことで、学校全体で廊下を歩くことへの意識が高まり、6年生として達成感をもつことができる。



6年 体育・保健「病気の予防(喫煙と健康)」

4年 体育・保健「育ちゆく体とわたし」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像(体育・保健領域の目標及び研究主題より)

【豊かな心】友達との関わりの中で、自分や相手を大切にする気持ちを育てお互いに高まろうと活動する子

【健やかな体】自ら生活を見つめ身に付けた知識を生かし、将来に向けてよりよい健康づくりを実践しようとする子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

場面設定



6年

未成年者が友達に喫煙をすすめられた時「どのような言葉・態度で断るか」について考える。

喫煙をすすめられた時の断り方を小集団で発表し、その断り方の内容や態度、言い方などで良いところをお互いに気付くようにする。友達との関わりの中から自分や相手を大切にする気持ちを感じることができるようになる。

具体的な資料の提示

視覚に訴える資料を用意し、体の変化には、個人差があることを知り、互いに尊重する気持ちを育てる。



4年

体の変化に悩んでいる友達に「言葉のプレゼント」を考え、小集団で発表する。

小集団活動



「自分の体を傷付ける」という言葉が、誘った人をあきらめさせました。

6年



「大丈夫だよ。みんなだっていつかなるから、それは、大人に一步近付いたしるし。心配しなくていいよ。」

4年

3年 音楽「手話で歌おう(友だち・歌よありがとう)」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (音楽の目標及び研究主題より)

【豊かな心】互いのよさや価値を認め合い、友達とともに音楽をつくり上げようとする子

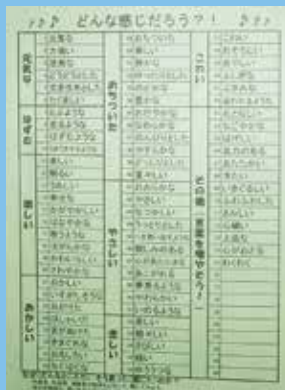
【豊かな心】進んで音楽に関わり、思いや意図をもって表現できる子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

音楽科における言語活動の充実

歌詞の意味をより深く感じ、伝えたい思いを明確にもち、手話によってその気持ちを体全体、顔の表情を使って表すことで、より豊かな歌唱表現に結び付くと考えた。漠然と持つ思いを、常に具体的な言葉で置き換え、それを表現する(伝える)ためにどうしたらよいかと考え、表現の工夫に結び付けた。



教材選択の工夫

教師がまずこの教材を取り上げることで、付けたい力、表現させたいことを明確にもつ。「共通事項」の学習を支えとして、楽曲のよさや面白さに気づき、児童が「このように演奏したい」と、自分なりの思いや意図をもてるような教材の選択をする。

小集団活動・グループ形態の工夫

ねらい達成のために個、ペア・小グループ、学級全体での学習活動を効果的に適切に組み合わせた。表現自体に抵抗感のある児童には、小集団の活動をすることで、自分の思いを伝えやすい環境となった。互いの評価が肯定的になるように聴くことと、見るポイントを絞ったことで、児童の主体的な活動を促し、次への意欲化を図れる場となった。



学習カード・掲示物の工夫

掲示物を工夫し充実させることで「音楽の要素」や技能のポイントなど音楽活動に必要な用語を日常的に目にし、意識的に活用できるようにする。また「どんな感じだろうカード」を活用し、音色、曲想や感じ取ったことを言語化するようにし、イメージや思いをもって表現に結び付けられるようにする。



5年 図画工作「商品開発をしよう」

思考力・判断力・表現力

主体性

多様な考え

自律性・社会性

対応力(場・相手)

思いやりの心

思考の深まり

目指す児童像 (図画工作の目標及び研究主題より)

【豊かな心】互いの違いやよさを認め合いながら、よりよい発想をし、それを高めていける子

具体的手だてと活動

- ・目指す児童像に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

図画工作科における言語活動の充実

作品をよりよくしていくため、友達と話し合いを繰り返すことで、自分の考えとの違いやよさに気づき、作品に生かすことができた。



小集団活動

一人一人の発想はそれぞれ違うものである。小集団で活動することで、感じたことや思ったことを友達と話し合い、自分だけでは思いつかない新しい見方や発見をすることができた。



題材の設定

グループで売れる商品を開発するという目的が、一人の考えだけでつくる作品と違い、話し合いを必要としているので、友達と活発に話し合うことができる。また、子どもたちの好きなお菓子を考えることでより積極的に話し合える。



鑑賞活動

自分たちで鑑賞するだけでなく、他学年の子どもたちにも見ってもらうことで、様々な感想を聞くことができる。それをきっかけにさらに言語活動の幅が広がっていく。



体を動かす機会 関わる機会

マイスクールスポーツ「なわとび」

「なわとび」は、縦割り班活動の一環としても取り組んでおり、関わる力・コミュニケーション能力の育成と心身の健康や体力についての関心を高めることを目的として実践している。上級生が下級生になわとびを教えたり、ともに体を動かしたりすることを通して思いやりの心を育む和やかな姿が見られる。



もっと、足をあげると縄にひっかからないよ!



3学期の体育朝会では、学級ごとに長縄の連続回数を競い、記録の向上を目指す。



休み時間には、上級生がなわとび検定をしたり跳び方のコツを教えたりする。

マイスクールスポーツ「水泳」

「水泳」は、各学年での授業や、夏季水泳教室などで取り組んでいる。その中で、小グループでの活動や6年生が低学年の水泳の補助をする水泳サポーターなど友達や異学年と関わる機会を大切にしている。また、夏季水泳教室と日常の授業は、関連させたカリキュラムで統一を図っており、個への対応を重視した取組を行っている。その結果、泳力だけではなく、コミュニケーション能力の向上も見られるようになった。



夏季水泳教室の様子



異学年での交流



水泳サポーターが優しく声を掛け、安心して関わる姿が見られる。

ふれあいタイム(全校縦割り活動)

豊かな心を育てるために始めた「ふれあいタイム」(縦割り班活動)は、思いやりの心を育てたり共に体を動かすことに喜びを感じたりするよい機会である。高学年は責任感を、低学年は大きな子を見て自立していく等よいところがいっぱい「ふれあいタイム」、子どもたちはこの時間を楽しみにしている。



多くの遊びを共にする中で一層グループの人間関係が深まる。



グリーンアリーナの新設により遊びの幅も広がりを見せ始めた。



一年間のまとめでは、5年生を中心にお世話になった6年生に感謝の寄書きをつくる。

休み時間とロング放課後遊び（時程の工夫で年60回×60分）

「時間」「空間」「仲間」の遊びの必要条件の減少という課題を解決するために、毎週火曜日と木曜日に「ロング放課後遊び」の時間を設けている。遊ぶ時間と場所の確保によって、体を動かす機会と関わる機会を増やすことができる。週2回の昼休みと清掃時間の工夫や、校庭、屋上、グリーンアリーナのローテーション活用により、低学年・中学年・高学年にそれぞれ遊ぶ時間と場所を確保している。



自由な発想で遊び方を工夫し、仲間とコミュニケーションをとりながら、体を動かすことの心地よさを味わうことができている。



楽しい運動遊びや伝統、伝承遊びを児童に広め、より多様な運動遊びに親しむことができるように環境を整備している。

運動遊びの中で、児童は自己決定を繰り返し、自己有用感を得ることができる。教科等とは異なった側面から豊かな心と健やかな体の育成に迫ることができる。

サポート活動（関わる機会）・サポート教室（運動に親しむ機会）

6年生が、入学したての1年生の学校生活におけるサポートや、夏季水泳教室における低学年の指導補助や用具準備などを進んで行っている。また、水泳とマット・跳び箱に苦手意識をもっている児童を対象に「サポート教室」を行い、苦手克服を目指している。



マット・跳び箱サポート教室

水泳サポート教室

感覚づくりの運動を中心に行い、多くの教員が指導する体制を整えることで、児童一人一人に充実した指導が可能になる。多くの児童が「できた」という喜びを感じることができる貴重な機会となっている。



安心して技に取り組める環境づくりの工夫

サポート教室の中でも、小グループで活動することを大切にしている。友達に見守られているという安心感もサポートの重要な要素である。

技に苦手意識をもっている多くの児童の悩みの種が「恐怖心」である。その恐怖心を取り除く環境づくりこそ、児童の心の面での大きなサポートとなる。このような環境づくりは日々の授業の中でも大切にしている。

関わる機会

異学年交流・保幼小連携等

異学年交流・保幼小(保育園・幼稚園・小学校)の連携など多様な交流活動を通して、関わる機会を多くもち豊かな心を育む。

異学年交流



●1年生サポーター(1・6年)

新1年生のお世話を6年生が行う。



●学校探検(1・2年)

2年生が新1年生を連れて、学校を案内する。



●6年生との交流集会

集会で6年生と名刺交換やゲームをする。



●水泳サポーター(6年)

夏季水泳教室では、6年生が当番制で水泳のサポートをする。



●ブラスバンド(5・6年)

5・6年生が休み時間や放課後に練習をし、朝会や運動会で演奏する。新入部員に楽器ごとに教えていく。



●交流給食(1～6年)

異学年で給食を食べたり、ゲームで遊んだりする。

地域交流



●勤労感謝集会

地域の方々に感謝状や贈り物を贈ったり、お話を聞いたりする。



●わんぱく相撲(特別練習3～6年)

学区内にある荒汐部屋へ行き、力士の方々に稽古をつけていただいている。



●デイサービスセンターでの交流(6年)



保幼小交流・連携



●ひさまつり(5年・幼)

5年生の総合的な学習の時間で園児のために縁日を計画し招待する。



●芋掘り遠足(3年・幼)

柏学園の芋掘りでは、3年生と園児でグループを組んでお弁当を食べたり、遊んだりする。



●交流給食(保・幼・小)

幼稚園・保育園の年長が給食を体験。小学生と給食を食べる。



●人形劇鑑賞会

●展覧会・作品づくり



●音楽会リハーサル見学(保・幼・小)

久松しぐさ

「久松しぐさ」の取組を通して、礼儀や思いやりの意識を高め、他者を尊重する態度など豊かな心を育む。

久松しぐさ集会



「久松しぐさ」についての理解を深め、全校で共有し、思いやりのあふれる久松小学校をみんなで築いていこうとする意識を高める機会とする。

あいさつ運動



学級ごとに1週間交代で、玄関で登校児童にあいさつを行う。あいさつし合うことの気持ちよさを感じ、自分のあいさつについて振り返ることのできる機会とし、あいさつへの意識や意欲を高める。

久松しぐさの木



友達の思いやりある言動を見付け、各学級の久松しぐさの木に貼り貯めていく。人を認める心、自分も人に思いやりをもった言動をしようとする心を育てていく。

運動に親しんだり、取り組んだりするきっかけとし、豊かな心と健やかな体の育成をめざす

清水宏保さん



<経歴>
 長野五輪 500m金
 1000m銅
 ソルトレイク五輪 500m銀
 W杯 通算優勝35回
 幼稚園からスケートを始める。喘息に苦しみながら、治療・管理のもと、スピードスケート短距離界の第一人者として活躍

櫻井由香さん



<経歴>
 2005 ベストリベロ賞
 2007 北京五輪代表
 2010 全日本バレーボール選手権大会初優勝
 レフトプレーヤーからリベロに転向。ポジションの違いに苦勞しながら努力を積み重ねて、北京五輪の代表メンバーに選出

平成28年度

エリック・ワイナイナさん



<経歴>
 アトランタ五輪 銅メダル
 シドニー五輪 銀メダル
 アテネ五輪 7位入賞
 2010 サロマ湖100kmマラソンに挑戦、優勝
 高校卒業後単身ケニアから来日。異なる環境でマラソンの練習に励み、初のマラソン大会で優勝。現在もウルトラマラソンなどで活躍

二條実穂さん



<経歴>
 リオデジャネイロパラリンピック
 車いすテニス 4位入賞
 国内ランキング
 シングルス 2位
 ダブルス 1位
 大工になりたいという夢をもち、建築会社に就職したが、作業中の事故で車いす生活となる。入院生活の中で車いすテニスを知り、退院後すぐに始め、国内トッププレーヤーとなる。

H25~H27

H25

- ・猪谷千春さん (アルペンスキー)
- ・石黒由美子さん (シンクロ)
- ・柴田亜衣さん (競泳)

H26

- ・萩原智子さん (競泳)
- ・白戸太朗さん (トライアスロン)
- ・佐藤真海さん (パラ陸上)

H27

- ・陣内貴美子さん (バドミントン)
- ・赤井英和さん (ボクシング)
- ・高平慎士さん (陸上)
- ・木村潤平さん (競泳・パラトライアスロン)



子どもたちの声から

- ・「母親に感謝」という言葉を聞いて、両親に対しての考え方が変わりました。
- ・ワイナイナさんのように異なるものを認められるような人になりたいと思いました。
- ・陸上ですごだけでなく、人間として素晴らしいと思いました。
- ・自分の夢を叶えるために、どのような生活をしたらよいかを考えました。
- ・自分にマイナスになること、「無理とは絶対に言わない」ということが心に残りました。
- ・障害者スポーツにも興味をもつことができました。ボランティアなどの活動を行いたいと思いました。
- ・家族に感謝しながらスポーツを続けていたことが、心に残りました。

研究主題

「豊かな心と健やかな体の育成」-自分らしく表現する子どもを育てるために-

「自分らしさ」とは

- ・自信をもって思いを出す
- ・やりたいことに自分から取り組む
- ・友達と関わる

主体性

小学校以降につながる力

関わる力

製作活動を通して幼児が「自分らしさ」を表現できるような、教師の援助、具体的な手だてを探る

平成27年度の課題から「発達に応じた経験を積み重ねていくための教材・援助の工夫」を探るため3年間の製作の一覧表を作成し、共通理解を図った

「イメージをもって製作を楽しめる環境」

「自由性・選択性が保障された環境」

「意欲がもてるような具体的な目標」の3つのポイントを生かす

幼児が製作に必要な技能を身に付けていくための、経験の積み重ねを重視しながら、活動を計画する

3年間の製作の一覧表（一部抜粋）

28年度 年長組 描画・製作(1学期)

発達過程	0年生になった喜びを感じながら友達と一緒に行動し、つながりを感じる時期		
時期	4月		4～5月
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・お休みの準備の当番が分かり、当番活動することに期待をもつ。 ・自分の顔を描くことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった先生方に感謝の気持ちをもって、プレゼントする絵を描くことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の人形を作ることを楽しむ。 ・壁面に飾り、誕生日を認めることに期待をもつ。
作品			
経験していること	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の顔を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お」「動物」「食べ物」「顔（自分、先生）のテーマから選んで描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丸めた新聞紙で作る遊び。 ・布や毛糸を切る。 ・ボンドを使って貼る。 ・布にペンで描く。
備前・準備	<ul style="list-style-type: none"> ・八つ切り1/4サイズの学級カラーの画用紙。 ・クレヨン。 	<ul style="list-style-type: none"> ・布 30cm四方（教室から持参）。 ・新聞紙（丸巻き1/4サイズに切る）。 ・割り箸、セール。 ・黒だいたいの色、白のシル生地。 ・犬の鼻ゴム、ボンド。 ・フェルト（手足、鞋用）、毛糸（中心を刺繍した布）。 ・毛糸（毛糸を丸く巻いた布（目にする））。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うしろの型3種。 ・白玉の型（大中小）。 ・八つ切り半分位の大さじのカラービニール。 ・ぼさみ、油性ペン。 ・セロハンテープ、ラピーテープ。 ・こいのぼり土台（学級ごとビニールをつなぎ合わせた）。

まとめ（成果と課題）

- ・3年間の製作の一覧表を活用したことで、見通しをもって、製作活動を計画することができた。その時期に『幼児に経験させたいこと』をおさえていることで、幼児の興味やイメージに応じて教材を工夫し、提示したことが、遊びの充実や自分らしく表現することにつながった。
- ・製作の取組において、自信をもって思いを出すことには、個人差がある。経験を積み重ねていくとともに、3つのポイントを日頃の保育実践や振り返りに生かし、教師の援助や環境を見直すことが大切である。

年少組 リースづくり (12月)

<ねらい>

自分なりに色を選んだり、形をついたりして、リースにすることを楽しむ。

目指す幼児像

- 安心して自分の思いを出す
- 自分でついたり、描いたりすることを楽しむ

イメージをもって製作を楽しめる環境

自由性・選択性が保障された環境

意欲がもてるような具体的な目標

にあたる教師の援助・環境構成

自分らしく表現する姿



好きな色を選んで

何回もつくる

また作りたくて、色や詰め方を変えてつくる

面白そう、やってみようと自分から取り組む

具体的手だてと活動

京花紙を丸めて、細長い袋の中に詰める。袋の口をセロテープで留めて、端と端をつなげて丸くする。



<教材研究>

- ・袋の長さは何センチくらいが扱いやすいか?
- ・クリスマスリースのイメージをもちやすい、素材、色、長さか?
- ・袋に入れやすい京花紙の大きさは?

先行経験

お月見団子づくり (9月)



京花紙を丸めて、お餅に見立てて遊ぶ

京花紙を丸めて、ビニール袋に入れて、留める



果物づくり (11月)

☆実態 ・教師の願い

- ☆自分でできたうれしさが、やってみようという意欲につながっている。
- ・親しんだ素材を使って、新しいものをつくること(他の使い方)ができると気付いてほしい。

教材を工夫することで
経験の幅が広がる

まとめ (成果と課題)

- ・教材との初めての出会いから、丸める、袋に入れる、テープで留めるなど、発達に合わせて活動を計画した。どのようにつくっても失敗のない教材は、幼児がやってみようという気持ちをもちやすく、安心して取り組むことができる。
- ・幼児が自分でつくった満足感をもち、好きな遊びで生かしやすいように、手順や用具をよく検討し、工夫することが必要である。

年中組 衣装(しっぽ)づくり(12月)

<ねらい>

自分なりのイメージをもち、考えたり工夫したりしながらつくることを楽しむ。

目指す幼児像

- 自信をもって自分の思いを出す
- 自分からいろいろなことに興味をもって、取り組むことを楽しむ

イメージをもって製作を楽しめる環境

自由性・選択性が保障された環境

意欲がもてるような具体的な目標

にあたる教師の援助・環境構成

自分らしく表現する姿

それぞれの動物のしっぽの形を考えて、自分なりに表現しようとする



友達と一緒になりきって表現する



衣装に愛着をもち、身に付けて遊ぶ

具体的手だてと活動

柔らかい紙を丸めてビニールにくるみ、油性ペンで模様を描いたり、スズランテープを付けたりする。

<教師の援助・環境構成>

- ・イメージを具体的にもてるように絵本を用意したり、友達の作る姿が見えるような環境に配慮したりした。
- ・幼児のイメージした色や形を選択できるように材料の色や大きさを想定しながら複数用意した。



さるのしっぽの先は丸くしよう!

先行経験

さくらんぼづくり(5月)
京花紙、トイレtpーパー、モール

野菜づくり(7月)
カラービニール、トイレtpーパー

とんぼづくり(9月)
画用紙、スズランテープ

マラカスづくり(10月)
ペットボトル、ビーズ、ストロー、油性ペン

- ・いろいろな素材を使ってついたり、つくったもので遊んだりする楽しさを感じる。

☆実態・教師の願い

- ☆遊びに必要なものをついたり、動物になりきったりして遊ぶことを楽しんでいる。
- ・今まで経験した材料で、劇遊びに必要なものを自分なりに考えながらつくってほしい。

材料の種類やいろいろな使い方を経験できるように計画し、好きな遊びの中でも幼児が選んで使えるように用意した

まとめ(成果と課題)

- ・教材や遊びたくなるような環境構成を工夫してきたことで、つくることを楽しむ姿が多く見られるようになった。
- ・いろいろな材料を使ってつくる経験ができるように、昨年度の研究を活かし、見通しをもって製作活動を計画してきたことで、幼児が自分から材料を選択し、考えたり試したりする姿につながった。
- ・自信をもって取り組むことには個人差があるため、個々の取り組みに応じて製作をする姿を繰り返し認め、つくる楽しさや自信につながるようにする必要がある。

年長組 劇の大道具づくり (12月)

<ねらい>

共通の目的に向かって同じ役の友達と協力して取り組む楽しさを味わう。

目指す幼児像

- 自信をもって自分の思いやイメージを表現する
- 共通の目的に向かって、友達と思いや考えを出し合いながら表現することを楽しむ

イメージをもって製作を楽しめる環境

自由性・選択性が保障された環境

意欲がもてるような具体的な目標

にあたる教師の援助・環境構成

自分らしく表現する姿

友達に手伝ってもらったり、声を掛け合ったりしてつくる

動かないようにおさえているね

薪はいっぱいあるといいね

自分のアイディアを友達に伝えながらつくる

具体的手だてと活動

劇に必要なものをみんなで考え思いを出し合う。また、どのような素材でつくるか、どのようにつくるかを話し合い、友達と一緒に進めていく。

どんな色にする？
形はどんなのにしようか？

窓があるといいな～

<教師の援助・環境構成>

- ・遊びの中で、グループごとに集まる時間を決めて、友達と一緒に取り組めるよう援助した。
- ・幼児のイメージが共通になるように、具体的な絵にするよう提案した。
- ・様々な素材の中から、イメージと合うものを選択できるよう準備した。

先行経験

こいのぼりづくり (5月)

少人数 (3~4人) のグループで、自分の思いを出し合いながらつくる

あじさいづくり (6月)

くす玉づくり (7月)

友達と協力して、一人では難しいものをつくるのができた嬉しさを感じる

☆実態 ・教師の願い

- ☆友達と一緒に、同じ目的に向かって遊びを進めていく楽しさを感じている。
- ・グループや学級の友達と同じ目的をもち、自分の力を発揮しながら協力して取り組んでほしい。
- ・共通のイメージに向かって、自分の思いを出したり相手の思いを受け入れたりしながらつくってほしい。

幼児の思いやイメージが実現できるように、必要な用具や素材を準備する

まとめ (成果と課題)

- ・自分の思いが出しやすく、それぞれの思いに気付いて進められるように、少人数のグループで話し合う機会をつくってきた。その経験を重ねることで、自分の思いを自分の言葉で伝えたり、受け入れられる嬉しさを感じたりして、友達と一緒に取り組む楽しさや友達のよさに気付く姿につながった。
- ・自分一人ではできないものを、みんなと協力してつくりあげることで、遊びや生活の中で、仲間意識をもちながら友達と分担したり協力したりする姿につながった。
- ・友達と協力して一つのものをつくる中で、一人一人の幼児が、自信をもって力を発揮できるよう自分の思いを言葉で伝える力や技術には個人差がある。一人一人の思いを実現できるよう、発達に応じた教師の援助、工夫が必要である。

まとめ

実践のまとめとしての系統表について

(詳細は中央区立久松小学校ホームページ参照)

研究実践を進める上で、児童の発達の段階や各教科等の特質に応じた指導(小集団活動の活用など)が不可欠であり、これまでの実践をとりまとめて以下のような系統表を作成した。

小集団活動系統表(一部抜粋)

①単元名 ②小集団活動のねらい ③具体的な場面

学年	国語	生活	音楽	道徳
1年	①じどう車くらべ ②思考の深まり ③車の「仕事」にぴったりあう「つくり」とその理由の説明の仕方をペアで伝え合い、よりよい説明の文章にする。	①花ややさいを育てよう ②思考力・判断力・表現力 ③「花や野菜の育て方」について自分の気づきを友達の気づきと関連付けて捉える。	①手話で歌おう ②思考力・表現力、思いやり ③歌詞の意味や歌い方について小集団で話し合い、効果的な表現方法を考える。	①ばんざい大きなはなまる ②多様な考え 思考の深まり ③「人間のいい順番にならぶ」という発問に対する自分の意見を伝え合い、道徳的な価値について一人一人の考えを深める。
	理科	算数	社会	体育
5年	①もののとけ方 ②思考の深まり・表現力 ③各班の実験結果を持ち寄り、複数班の実験から考察を話し合い結論を導き出す。	①図形の面積 ②多様な考え ③友達が考えた面積を求める式を見て、どのように考えてそのような式になったのかを話し合い多様な考えがあることに気付く。	①徳川家光と江戸幕府 ②主体性・思考の深まり ③地図を比較し、江戸時代が260年続いたことと関係が深いものベスト3を小集団で話し合って選び、学習問題をつくる。	①水泳 ②思考力・判断力・表現力 ③タブレット端末の映像を見て技能分析のための話し合いを行い、課題を解決する。

言語活動系統表(一部抜粋)

社会	<ul style="list-style-type: none"> ○学習や生活の基盤となる知識・技能を習得させるために、作業的・体験的な学習や課題解決的な学習を一層充実させ、それらを表現する。 ○知識・技能を活用して観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関連付け・総合しながら再構成する。 ○考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことにより互いの考えを深めていく。 	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解するため、実習や観察などの実践的・体験的な活動を行い、レポートの作成や考察、思考したことを発表する。 ○自分の生活における課題を解決するため、インタビューや体験を通して課題をつかませ、比較実験や調べる活動を行う。その結果から分かったことや考えたことを図表やグラフ、言葉にまとめ、それを発表し合い活用の仕方を考える。
----	--	----	--

発達の段階における系統性

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ○主語と述語(例えば、性質、状態、関係など)を明確にして表現する。 ○比較の視点(例えば、大きさ、色、形、位置など)を明確にして表現する。 ○判断と理由の関係を明確にして表現する。 ○時系列(例えば、まず、次に、そして、など)で表現できる。 ○互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。 ○書いた物を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。 ○文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○判断と根拠、結果と原因の関係を明確にして表現する。 ○条件文(例えば、「もし、○○ならば、△△である」)で表現する。 ○科学用語や概念を用いて表現する。 ○互いの考えの共通点や相違点を整理し、司会者や提案者などの役割を果たしながら進行に沿って話し合う。 ○書いた物を発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。 ○文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○演繹法や帰納法などの論理を用いて表現する。 ○規則性やきまりなどを用いて表現する。 ○互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。 ○書いた物を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。 ○本や文章などを読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

○系統性(小集団活動・言語活動)についてのまとめ

低学年の小集団活動は、ペアや少ない人数で「友達の話を聞く」「友達に話をする」ことを積み重ね、互いの考えを交換するよさに気付くようになった。中学年になると、話し合ったことを自分の考えに生かすよさを意識できるようになってきている。さらに高学年では、様々な形態の話し合いが可能になり、これまでの経験から友達の考えや方法を認めたり助言したりする言葉が豊富になり、目的に沿って効果的に話し合い、自分の考えを深めることができるようになってきている。

小集団活動は子ども同士の協働を促すことにより、主体的で対話的な学びにつながる。また、そのような活動の中で、「自分の知識や考え方の幅を広げ深める」「場に応じて対応できる力を身に付ける」「自律性・社会性を身に付ける」「様々なつながりや関係性に気付く」等の深い学びが実現すると考える。

さらに「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を構成する学習活動の要素として言語活動(自己の思考・伝え合い・思考のまとめ)が基盤となってくる。習得、活用、探究のいずれの場面においても、各教科等における学習活動の基盤となるのは言語能力であり、豊かな心を育むことや人間関係を形成していく上でもそれらは、重要である。全教科等を通して指導する上で、発達の段階や各教科等の特性や単元のねらい等を踏まえた言語活動の充実を図ることで思考力・判断力・表現力等の育成を目指した。

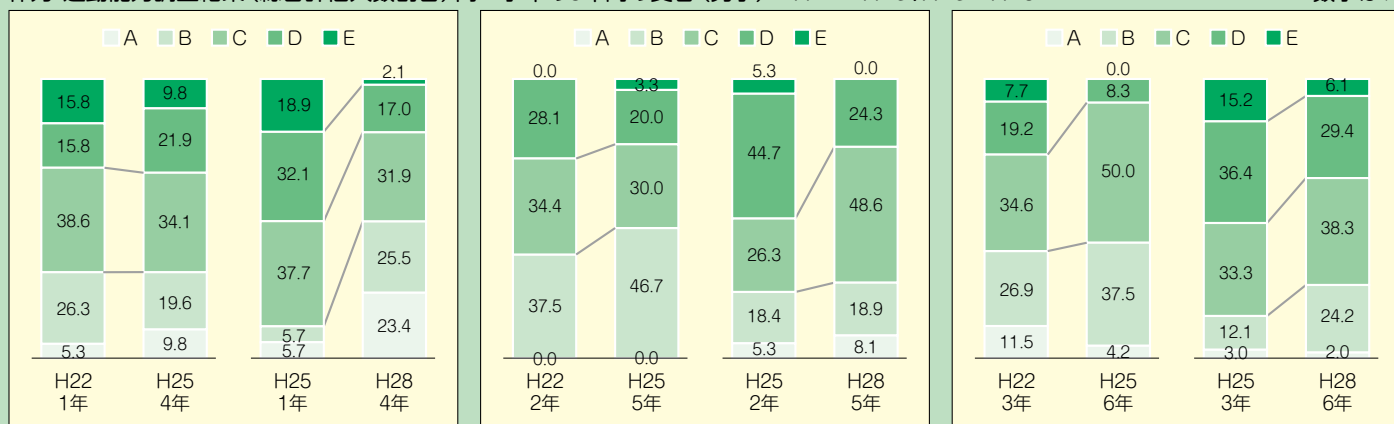
小集団活動も言語活動も学習効果を上げるための手段であり、活動そのものが目標ではない。各教科等にしかない固有のねらいを達成するために適宜これらを組み込んでいくことが大切であると考える。

データから見る成果と課題

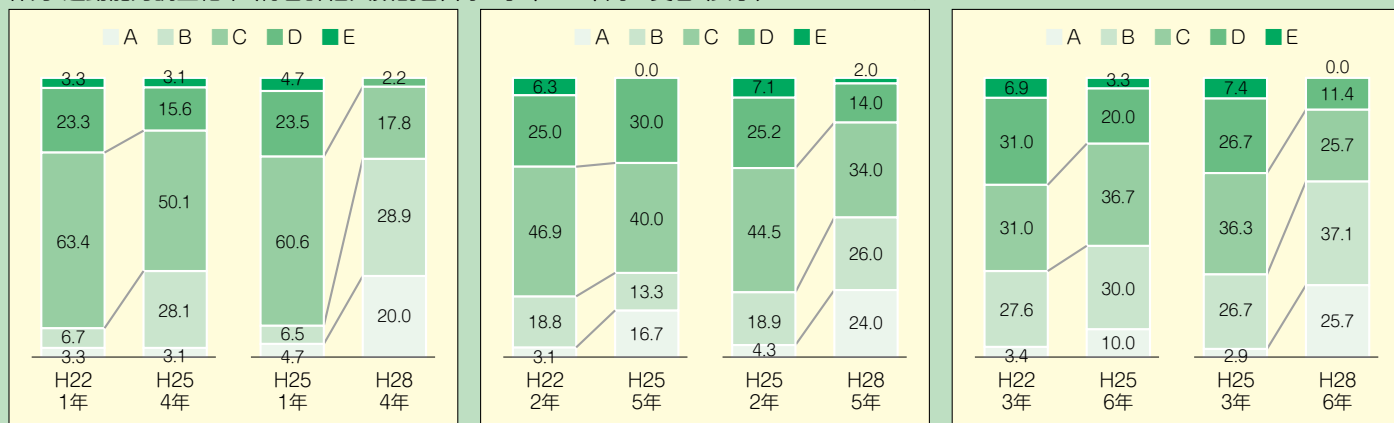
体力・運動能力調査（一部抜粋）結果から

- 下のグラフは、体力・運動能力調査の総合評価（A最上位～E）の人数の割合について同一学年の3年間の変化（H22→H25、H25→H28）を示したものである。傾向として男女ともA・Bの層が増加し、D・Eの層が3年間で減少していることがわかる。これまでの他のデータからも学年進行に伴い、総合評価の全体がよい方に変化している。これは体育授業の充実やロング放課後など体を動かす機会の保障による成果の一つであると考えられる。特にロング放課後は、1回60分を年間60回実施している。広い遊び場の少ない環境にあるため、学校の校庭で遊びの時間を確保できていることの意義は大きいと考える。
- 一方、平成24年あたりから、毎年入学してくる男子についてD・E層が依然として増加または横ばいの傾向にある。その原因や対策について、より一層保育園、幼稚園との相互研修、理解を深め、幼児期からの運動経験をどう進めるか入学後の指導はどうあるべきかを共に考えている。近年、園庭のない保育園も増えていることから、運動会場の貸し出し、校庭やプールの開放等、連携を図っているところである。

体力・運動能力調査結果（総合評価人数割合）同一学年の3年間の変容（男子） H22→H25、H25→H28 数字は%



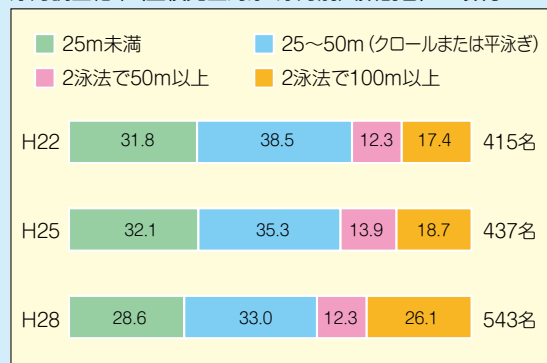
体力・運動能力調査結果（総合評価人数割合）同一学年の3年間の変容（女子） H22→H25、H25→H28



泳力調査（抜粋）の結果から

- 右のグラフは平成22年度・25年度・28年度の全校児童の泳力状況を示したものである。7割以上の児童が25m以上、4割近い児童がクロールと平泳ぎで50m以上泳げるようになっており、その割合が増加してきている。マイスクールスポーツにも水泳を位置付けており、水泳の苦手な子どもたちに個別に教員が指導する水泳サポート教室や夏季水泳教室で6年生サポーターが課題別指導を行うサポーター制を継続していることなどが成果を上げている要因と考える。さらに、全ての学年が基本的な指導方法を統一しているため、子どもたちは6年間同じスタイルで学習することができ、学習の効率化、時間の保障につながっていると考える。

泳力調査結果（全校児童対象・泳力別人数割合） 数字は%



*関連 P25、26参照

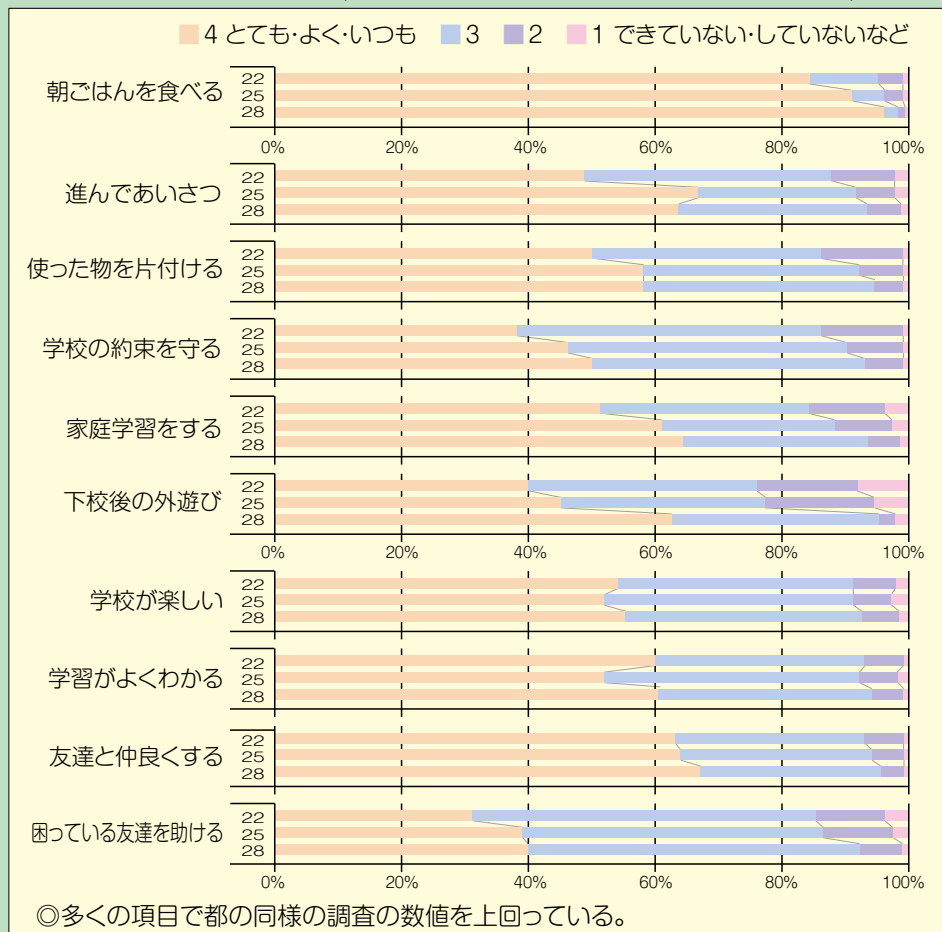
児童生活アンケート結果から

○右のグラフは、平成22年度・25年度・28年度の児童への生活アンケートの比較である。

また、これらのグラフは、豊かな心と健やかな体の育成を継続してきたことにより多少変容の見える項目をあげたものである。健康教育等の継続による成果の一端が出てきている。

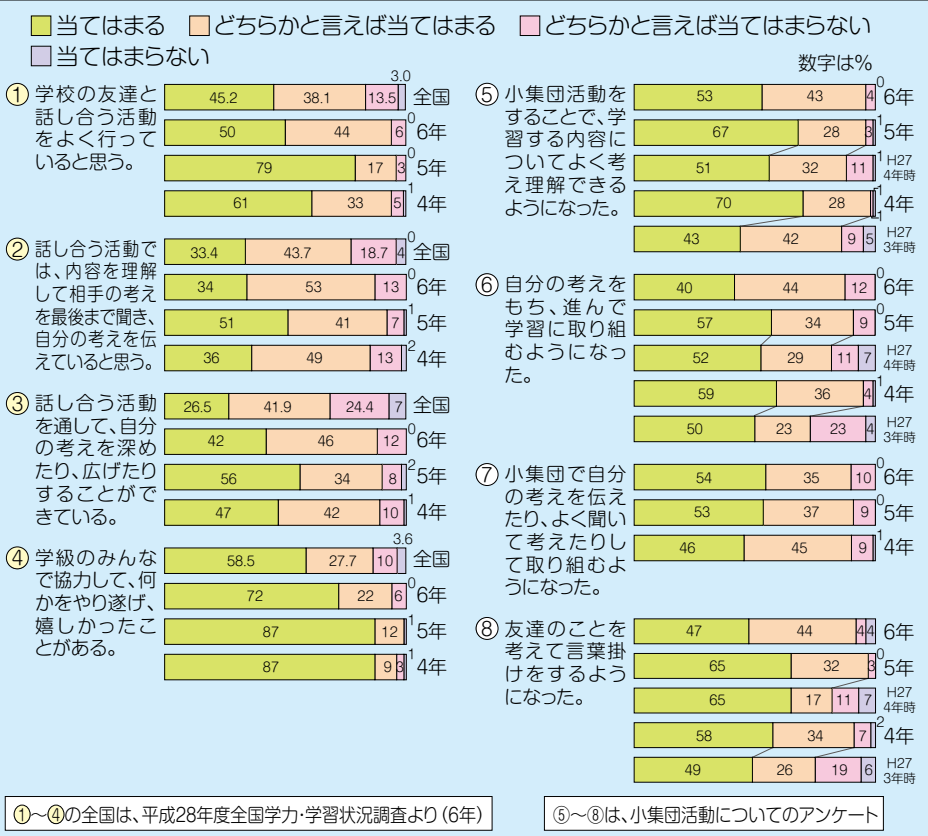
○一方、これらの各項目については、新1年生で年々下降傾向であるのが課題である。豊かな心につながる幼児期からの「関わる力」を高め、今まで以上に幼児教育機関と連携していくことが引き続き課題である。

全校児童生活アンケート結果から(3年毎の変容抜粋平成22年度・25年度・28年度比較)



学習・生活アンケートより

- ・右のグラフは平成28年度の本校独自で行っている、「学習・生活に関するアンケート」結果の抜粋である。
- ・アンケート①～④は全国学力・学習状況調査(6年)の意識調査と、同じ調査を本校で4年から6年までに行った調査との比較である。4,5年生についても全国の数値を大きく上回っているものが多い。
- ・アンケート⑤～⑧は小集団活動についてどのような変容があったか問うものである。どの項目も予想以上に大きな変容が見られる。
- ・ここ数年、小集団活動を核に主体的・対話的な学習を意図的に各教科等の学習に取り入れてきた成果であると考える。



成果

- ・ 発達の段階と教科等の特性を踏まえた小集団活動の実践の蓄積（一覧表の作成）
- ・ 授業前後の児童の変容分析による、小集団活動の有効性の実証（データより）
- ・ 主体的で対話的な学習（小集団活動）の推進による深い学び（つなぐ・関連付ける）の実現
- ・ 全教育活動を通し、小集団活動を実践したことによる教科横断的なつながり、関連の実現
- ・ 心身の健康への意識・実際の体力等の向上（データより）

課題

- ・ 教科等の特性に応じた言語活動のより効果的な位置付け
- ・ 就学前教育との一層の連携
- ・ 問題解決場面における「深い学び」の更なる検証
- ・ ICTの多様な活用など環境整備

様々な教科で小集団を取り入れることで、積極的に発言したり、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたりする児童の姿を多く見ることができた。

話し合いの際は、「議論に値する発問」を吟味することや、具体的な視点を示すことが重要だと感じた。

1年生はペアでの活動で互いに相手を意識して伝えたり聞いたりする態度が育つと感じた。

国レベルで、今求められている力を身に付けるために、本校で取り組んでいる「小集団での活動」がマスターキーになっていることを、日々の実践の中で感じることができた。

低学年の時からいろいろな教科、場面でペア活動を効果的に取り入れていれば、中学年以降に、より充実した活発な小集団活動につながると感じた。

コミュニケーション能力や感性を育むためには、様々な単元において時間の確保が大切であると実感した。

主題である心と体、そして頭もすべて関連し、相乗効果で児童が総合的に育成されていると感じた。

あ と が き

副校長 新屋由美子

本校は、平成28・29年度と2年間にわたり区研究奨励校として「豊かな心と健やかな体の育成」を掲げ、小集団活動と言語活動を核とした研究を深めてまいりました。本校がこの研究主題を掲げて研究を始めたのは平成23年からになります。それぞれの発達の段階に応じて、様々な教科の特性を生かした実践を積み重ね、本日の発表を迎えました。小集団による主体的で対話的な学習を6年間継続した成果は本日の子どもたちの姿にも大きく表れていたのではないかと思います。また、学習の場面だけでなく、日常の学校生活においても豊かな心と健やかな体が育っていることを感じております。

研究を進めるに当たっては、多くの講師の皆様にご指導を賜り、本研究をまとめることができました。このような機会を与えてくださった、中央区教育委員会教育長 島田勝敏 様はじめ関係の皆様にご心より感謝申し上げますとともに厚く御礼申し上げます。

【御指導いただいた先生方(平成27年度～29年度)】

教職員研修センター研究開発課	指導主事	野村 一代 先生	東京女子体育大学	教授	田中 洋一 先生
国立教育政策研究所教育課程研究センター	教科調査官	高田 彬成 先生	東京女子体育大学	教授	小林福太郎 先生
元明石小学校校長		岸本 修二 先生			
教職員研修センター研究開発課	統括指導主事	井上 龍夫 先生			
國学院大学	教授(前文部科学省初等中等教育局視学官)	田村 学 先生			

中央区教育委員会

指導室長	吉野 達雄	副参事	清水 明	統括指導主事	村上 隆史	統括指導主事	上原 史士
指導主事	清水 浩和	指導主事	平野 収	指導主事	和田 正典	幼児教育担当専門幹	中島由美子

平成28年度

副参事	猪瀬 賢一	統括指導主事	柄澤 武志	幼児教育担当専門幹	川越 裕子	統括指導主事	尾上佐智子
-----	-------	--------	-------	-----------	-------	--------	-------

【研究に携わった教職員】 (平成29年度 ◎研究主任 ○研究推進委員)

校長	酒井 寛昭	副校長	新屋由美子					
1年	関澤 里織	川合 晶道	算数少人数	上原 佳織	園長	太田 禎子	主任	田村みず希
	小豆野咲子	○南村 章子	音楽	松村 裕子	深瀬 良子	宮野 莉歌		
2年	関口里可子	○幸徳扶美子	音楽	稲津裕 弥子	鈴木久仁子	阿部奈津代		
	森田 慎		図工	古館 俊江	阿部 真秀	川島 梢		
3年	越智 啓太	富田 七海	養護	上野 弘子	山下 直子	吉本 千尋		
	○大沢 卓美		事務	安井 教晶				
4年	○大竹 悠介	太田 知依	非常勤教員	荻原 隆				
	千葉 日織		特別支援教室専門員	水村 悦郎	平成28年度			
5年	○川島 幹雄	○中原 里美	区算数講師	由宇とも江	菊池 佳子	湯澤真理子		
	水上美穂子		区算数講師	石塚 幹夫	杉田 高樹	高橋まい子		
6年	○川瀬 穰	鈴木可奈子	体育指導補助員	岸谷 紀久	菅野 志保	大橋 実		
	◎中嶋 友晴		体育指導補助員	山下 智貴	太田 倫子	小川美也子		
			栄養士	荒井 理子	野口 佳織			